

山下の部屋 コラム1 2020年10月2日

※コラムの内容は勉強方法や、季節の話。あるいは政府の白書等の数字を引用して一部所感で加筆しています。

■高齢化

高齢化社会という言葉は社会に定着した感があります。少し古い時期を見てみましょう。

・昭和22年の平均寿命は男性 50.06歳 女性 53.96歳でした。

・昭和34年 男性 65.21 女性 69.88

・昭和45年(1970) 男性 71.73 女性 76.89

令和元年簡易生命表によると、男の平均寿命は 81.41 年、女の平均寿命は 87.45 年 驚くべき数字の変化ですね。社会がおおきく変わり始めています。

・我が国の65歳以上人口は、昭和25(1950)年には総人口の5%に満たなかったが、昭和45(1970)年に7%を超え、さらに、平成6(1994)年には14%を超えた。高齢化率はその後も上昇を続け、令和元(2019)年10月1日現在、28.4%に達している。また、15~64歳人口は、平成7(1995)年に8,716万人でピークを迎え、その後減少に転じ、令和元年には7,507万人と、総人口の59.5%となった。「令和2年版高齢社会白書より」

■「令和2年版高齢社会白書」・・・数字等一部引用

(1) 高齢化率は28.4%

我が国の総人口は、令和元(2019)年10月1日現在、1億2,617万人です。

65歳以上人口は、3,589万人⇒総人口に占める割合(高齢化率)も28.4%です。

「28.4%」→年金や医療の問題がでてきますね。

65歳以上人口を男女別に見ると、男性は1,560万人、女性は2,029万人で、性比(女性人口100人に対する男性人口)は76.9であり、男性対女性の比は約3対4です。

★今度は、「75歳以上を見てみましょう。

「75歳以上人口」は1,849万人(男性729万人、女性1,120万人)で、総人口に占める割合は14.7%です。

(2) 令和47(2065)年

平成29(2017)年4月に国立社会保障・人口問題研究所が公表した「日本の将来推計人口」における出生中位・死亡中位推計結果

ア 9,000万人を割り込む総人口

令和47(2065)年には8,808万人になると推計されている。

イ 約2.6人に1人が65歳以上、約3.9人に1人が75歳以上

65歳以上人口は、「団塊の世代」が65歳以上となった平成27(2015)年に3,387万人となり、「団塊の世代」が75歳以上となる令和7(2025)年には3,677万人に達すると見込まれている。

ポイント・・・65歳以上人口は増加傾向が続き、令和24(2042)年に3,935万人でピークを迎え、その後は減少に転じると推計されている。

令和 18 (2036) 年に 33.3%で **3 人に 1 人**となる。令和 24 (2042) 年以降は 65 歳以上人口が減少に転じても高齢化率は上昇を続け、**令和 47 (2065) 年には 38.4%**に達して、国民の約 2.6 人に 1 人が 65 歳以上の者となる社会が到来すると推計されている。

※総人口に占める 75 歳以上人口の割合は、令和 47 (2065) 年には 25.5%となり、**約 3.9 人に 1 人が 75 歳以上**の者となると推計されている。

■ここで気になるのが生産年齢人口の問題です

・年少人口、出生数とも現在の半分程度に、生産年齢人口は 4,529 万人に出生数は減少を続け、令和 47 (2065) 年には 56 万人になると推計されている。

・この減少により、年少人口 (0~14 歳) は令和 38 (2056) 年に 1,000 万人を割り、令和 47 (2065) 年には 898 万人と、現在の半分程度になると推計されている。出生数の減少は、生産年齢人口にまで影響を及ぼし、令和 11 (2029) 年に 6,951 万人と 7,000 万人を割り、令和 47 (2065) 年には 4,529 万人 となると推計されている。

・将来の平均寿命は**男性 84.95 年、女性 91.35 年**になるそうです。

■100 歳以上 (2020 年 9 月 15 日)

100 歳以上の高齢者の数が初めて 8 万人を突破した。そのうち 88.2%を女性が占める。

1963 年には、100 歳以上の高齢者は全国で 153 人だったが、81 年に 1000 人を突破、98 年に 1 万人を突破し、その後も右肩上がりに増え続けている。

都道府県別で人口 10 万人あたりの 100 歳以上の高齢者の数が最も多いのが島根県の 127.60 人、最も少ないのは埼玉県の 40.01 人で約 3 倍以上の開きがあった。